

専門学校 東京国際ビジネスカレッジ (TIBC) 3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー (卒業認定・専門士授与の方針)

TIBC では、世界で活躍できる「リエゾン人材 (架け橋となる人材)」の育成を最終ゴール (専門士授与の基準) としています。必要な能力として以下の3つを定義しています。

DP 1 : 異文化理解と協調性

多国籍な環境において、互いの文化的背景や多様な価値観を尊重し、他者と柔軟に協働・共生できる能力。

DP 2 : ホスピタリティ精神

相手の立場や状況に寄り添って物事を考え、社会人として主体的に貢献しようとする実践的能力。

DP 3 : 専門知識と実践的技能

ビジネス、IT、語学 (英語・ビジネス日本語等) の領域における確かな専門知識を有し、グローバル社会の第一線で即戦力として活用できる能力。

2. カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる「リエゾン人材」を段階的に育成するため、以下の基本方針に基づいて教育課程 (カリキュラム) を編成・実施します。

CP 1 : 多文化共生キャンパスによる実践教育

世界各国からの留学生と日本人学生が共に学ぶ国際的なキャンパス環境そのものを教育資源とし、日常的な交流や多文化行事を通じて、異文化コミュニケーション能力と協調性を自然に養う仕組みを設けます。

CP 2 : 自立を促す伴走型指導

学生一人ひとりの目標達成に向け、学修および生活の両面を組織的にサポートする「伴走型の担任制」を導入します。社会人としての規律を重んじる学修指導を行うと同時に、教員と職員がチーム一体となったきめ細やかなアプローチにより、学生を孤立させず、着実な自立と成長へと導きます。

CP 3 : キャリア直結型の専門・実践カリキュラム

各業界のニーズに応じた実践的なビジネス知識、IT スキル、語学力を修得するための科目を体系的に配置します。また、資格取得支援やインターンシップ等を通じ、社会人基礎力を磨きます。

3. アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

創志学園の行動指針である「夢・挑戦・達成」、および学校が掲げる「感動の教育」に共感できる、以下のような学生を求めています。

AP 1 主体性と向上心

自分の「夢」を模索し、夢の実現に向けて新しい知識や技能の修得に主体的にチャレンジしようとする熱意がある人。

AP 2 多様性への受容と協調性

異なる文化的背景を持つ仲間を尊重し、互いに認め合いながら協働・共生しようとする意識がある人。

AP 3 学びに対する誠実さ

目標達成に向けて、毎日の学修活動に誠実かつ継続的に取り組む姿勢を持っている人

国際経営学科 3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・専門士授与の方針）

国際経営学科では、学校全体の教育目標である「リエゾン人材の育成」を基盤とし、グローバルビジネスの現場で即戦力となる経営知識と実践力を備えた人材を育成します。卒業までに以下の能力・資質を身に付けた学生に専門士を授与します。

DP1: 異文化協働マネジメント力

多国籍なチームや組織において、言語や文化の壁を越えてメンバーの強みを引き出し、共通の目標（プロジェクト）を達成へと導く協調性とリーダーシップ。

DP2: ビジネス・コミュニケーション能力

多様なバックグラウンドを持つ交渉相手や顧客に対し、ホスピタリティ精神を持って柔軟に対応し、ビジネスを円滑に進めるための語学力（英語・ビジネス日本語等）と折衝能力。

DP3: グローバル経営の知識と実践力

経営学、マーケティング、会計、貿易、ITなどの基礎・応用知識を修得し、多様化する現代ビジネスの課題を論理的に分析・解決できる能力。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

国際経営学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「グローバル経営の実践力」を段階的に修得するため、以下の通りカリキュラムを編成・実施します。

CP1: 多国籍ディスカッション・PBL（課題解決型学習）

多様な国籍の学生が在籍する環境を活かし、異なる価値観がぶつかり合う中で、合意形成を図るリアルな「異文化マネジメント」を体感させます。

CP2: 経営理論とケーススタディの融合

経営やマーケティングの理論を体系的に学ぶ講義に加え、実際の企業事例を扱う「ケーススタディ」を通じて実践的な意思決定を養い、生きたビジネススキルを身に付けます。

CP3: キャリア・資格と連動した実践指導

ビジネス実務マナー、MOS（ITスキル）、日商簿記等の資格取得をカリキュラム内で強力にサポートします。また、教職員が一体となった「伴走型の就職・進路指導」により、インターンシップから内定獲得まで、一人ひとりの適性に合わせたキャリア支援を行います。

3. アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

国際経営学科では、将来グローバル企業への就職や、日本と世界を繋ぐ起業・ビジネス創出を目指し、以下のような強い意欲と素養を持った学生を広く受け入れます。

AP1: ビジネス・経営への強い関心

将来、世界のビジネスシーンで活躍したい、あるいは自ら起業したい、家業の継承・発展させたいというような「夢」と「挑戦心」を持っている人。

AP2: 多様なメンバーと協働する意欲

国籍や文化が異なる仲間たちと積極的にコミュニケーションを図り、お互いを尊重しながらチームで何かを成し遂げたいという協調性がある人。

AP3: 自己管理と継続的な学修態度

ビジネスの世界で信頼される社会人となるために、毎日の授業を最優先にし、自らを厳しく律しながら日々の課題や資格取得に粘り強く取り組むことができる人。

経営研究学科 3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・専門士授与の方針）

経営研究学科では、学校全体の教育目標である「リエゾン人材の育成」を基盤とし、グローバルビジネスの動向を多角的にデータ分析し、論理的思考（ロジカルシンキング）を備え、経営課題を解決できる人材を育成します。卒業までに以下の能力・資質を身に付けた学生に専門士を授与します。

DP1: 異文化協働マネジメント力

多国籍なチームや組織において、言語や文化の壁を越えてメンバーの強みを引き出し、共通の目標（プロジェクト）を達成へと導く協調性とリーダーシップ。

DP2: ビジネス・コミュニケーション能力

多様なバックグラウンドを持つ交渉相手や顧客に対し、ホスピタリティ精神を持って柔軟に対応し、ビジネスを円滑に進めるための語学力（英語・ビジネス日本語等）と折衝能力。

DP3: リサーチの専門知識と実践力

経営学の高度な理論及びデータ分析手法を修得し、客観的なエビデンス（根拠）に基づいて経営のトレンドを評価し、即戦力として活かせる能力。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

経営研究学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「分析力」と「提案力」を段階的に修得するため、以下の通りカリキュラムを編成・実施します。

CP1: 多文化環境における PBL（課題解決型学習）

多国籍な学生が特定のテーマについて議論・研究する「卒業研究」を重視し、多様な意見を戦わせることで、多角的な視野と異文化協働力を養う。

CP2: 理論の深化とデータリテラシー養成

経営戦略や組織論などの先端理論を学ぶとともに、データ処理資格（Excel の上級資格等）の取得や、レポート執筆・プレゼンテーション演習を通じて、社会や大学編入で生きるリサーチ力を磨く。

CP3: デジタルスキルの養成

現代の経営に必須であるデータサイエンス、IT リテラシー、EC などの科目を全学年を通して配置します。

3. アドミッションポリシー（AP）

経営研究学科では、ビジネスの仕組みや社会のトレンドに対して強い好奇心を持ち、データや理論を用いて探求したいという、以下のような強い意欲と素養を持った学生を広く受け入れます。

AP1: 多角的な視点への受容と協調性

自分の考えに固執せず、異なる文化、言語、価値観を持つ仲間の意見を尊重し、対話を通じて共に真理や解決策を探究しようとする意志があること。

AP2: 社会・ビジネスへの主体的な探究心と向上心

現代のビジネスや社会のトレンドに対して強い知的好奇心を持ち、自ら調べ、深く考え、分析することに主体的にチャレンジしようとする強い意志があること。

AP3: リサーチ活動における学びへの誠実さ

データの収集や理論の修得というプロセスの積み重ねを大切にするために、毎日の授業を最優先にし、リサーチや課題に粘り強く取り組む姿勢を持っている人。

国際言語コミュニケーション学科 3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・専門士授与の方針）

国際言語コミュニケーション学科では、学校全体の教育目標である「リエゾン人材の育成」を基盤とし、高度な語学力と深い異文化理解力を備え、グローバル社会の多様な場面で円滑な人間関係を構築できるコミュニケーションの専門人材を育成します。卒業までに以下の能力・資質を身に付けた学生に専門士を授与します。

DP1:異文化受容とリエゾン能力

言語の背景にある多様な文化・歴史・価値観を深く理解・尊重し、異なる文化を持つ人々の間に立って誤解を解き、相互理解を促進する仲介者としての能力。

DP2:対人コミュニケーション力とホスピタリティ

対話を通じて相手の真意やニーズを汲み取り、思いやり（ホスピタリティ精神）を持って柔軟かつ効果的な表現で良好な人間関係を築くことができる能力。

DP3:実践的言語運用能力

英語やビジネス日本語等の領域において、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく修得し、ビジネスや日常の多様なシーンでの確に意思疎通ができる高度な語学力。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

国際言語コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「異文化理解力」と「言語運用能力」を段階的・体系的に修得するため、以下の通りカリキュラムを編成・実施します。

CP1：多文化共生環境と連動したコミュニケーション演習

多国籍な学生が集うキャンパスの特性を最大限に活かし、言語の枠を越えたディベート、プレゼンテーション、異文化リサーチなどのアクティブ・ラーニングを展開。生きた異文化コミュニケーションの成功と失敗を繰り返しながら、実践的な協調性を養います。

CP2:社会人基礎力を磨く伴走指導

言葉を扱うプロとして不可欠な「言葉遣い・礼儀・マナー」を徹底する指導を行います。また、教職員がチームとして一人ひとりの学修状況や語学の伸び悩みに寄り添う「伴走型サポート」により、卒業後の進路（就職・進学）の実現までをバックアップします。

CP3：語学教育と資格対策

ネイティブ教員による対話型授業を配置し、生きた語学力を日常的に鍛えます。また、ビジネスシーンでの発信力を証明する各種語学検定の対策を行い、語学力を確かな形にします。

3. アドミッションポリシー（AP）

国際言語コミュニケーション学科では、言葉の持つ力を信じ、語学とコミュニケーションスキルを武器に将来グローバルに活躍したいという、以下のような強い意欲と素養を持った学生を広く受け入れます。

AP1：異文化への受容と協調性

自分とは異なる文化的背景や言語、価値観を持つ人々に対して偏見を持たず、オープンマインドで積極的に関わり、共に学び合おうとする態度があること。

AP2：言語と言葉による表現への主体性と向上心

新しい言語（英語・日本語等）を学ぶことが好きで、言葉を通じて世界を広げたい、人と人を繋ぐ仕事に就きたいという「夢」を描けること。

AP3：語学修得における学びへの誠実さ

語学の習得に不可欠な「毎日の積み重ね」を大切にするために、毎日の授業を最優先にし、予習・復習や課題に粘り強く取り組む姿勢を持っている人。